

第2回足立区基本構想審議会会議録

日 時 平成27年8月5日（水曜日） 午前10時から12時00分

場 所 足立区役所中央館 8階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会委員（36名）

牛山久仁彦会長、田中充副会長、石阪督規委員、村上祐介委員、田中隆一委員、有馬康二委員、足立義夫委員、吉田修一委員、小久保兼保委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、田中忠穂委員、近藤勝委員、鈴木健文委員、石橋穠治委員、大塚和夫委員、北川千恵子委員、志自岐亜都子委員、白根澤正士委員、長谷川浩一委員、早木美恵委員、益留有紀委員、鴨下稔委員、吉岡茂委員、馬場信男委員、ただ太郎委員、たがた直昭委員、長井まさのり委員、岡安たかし委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員、鈴木けんいち委員、おぐら修平委員、石川義夫委員、定野司委員
事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

議題等 1 足立区基本構想策定のための検討素材について

2 意見交換（現行の基本構想に対する取組の成果について、足立区の現状について、将来の足立区の課題について等）

3 事務連絡

資 料 【資料7】足立区基本構想策定のための検討素材【概要版】 前回配付

【資料8】足立区基本構想策定のための検討素材

【資料9】足立区基本構想策定のための検討素材【補足資料】

【資料10】足立区基本構想策定のための検討素材【追加資料】

【資料11】足立区基本構想策定のための検討素材についての意見一覧

1．足立区基本構想策定のための検討素材について（説明）

牛山会長：お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまより第2回足立区基本構想審議会を開催させていただきます。改めましておはようございます。基本構想審議会会長の牛山でございます。本日も大変お忙しい中、またお暑い中をご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日も円滑な進行に努めたいと思いますので、皆様の活発なご意見とご協力をよろしくお願いいたします。

それでは最初に、今回は都合によりご欠席だった委員をご紹介しますと思います。まず村上祐介委員、よろしくお願いいたします。

村上委員：東京大学の村上祐介と申します。この度はこの場に加えさせていただきますのでどうもありがとうございます。私、大学で教育政策を担当しておりまして、主に子ども施策に関わることになるかと思っています。微力ですが一生懸命やりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

牛山会長：それでは引き続き石川義夫委員、よろしくお願いいたします。

石川委員：おはようございます。副区長の石川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

牛山会長：どうもありがとうございました。よろしくお願いいたします。本日は、現在の基本構想の成果、そして区の現状・課題等について議論したいと思います。なお新たな資料も配付されているようですので、事務局から説明をお願いいたします。

基本構想担当課長：おはようございます。事務局の基本構想担当課長、山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは資料の確認をさせていただきます。まずは、本日の次第です。その次第の裏面に全体スケジュールを改めて掲載させていただきました。全体回の第2回に当たりますので、区の現状把握や現在の基本構想の成果、そして課題の検討についてお願いしたいと存じます。次に、資料9の足立区新基本構想策定のための検討素材、カッコで補足資料と書かれたものです。次に、A3版の資料10、足立区新基本構想策定のための検討素材、カッコで追加資料です。次に、資料11の足立区新基本構想策定のための検討素材についての意見一覧です。これは、前回の提出依頼に対していただいたご意見等を専門分野別にまとめたものです。ご協力ありがとうございました。なお、各項目のうち回答用意と記載があるものは、後ほど事務局より回答させていただきます。

それから、冊子タイプの資料8、検討素材については、皆様に今後とも有効活用していただくため席上に追加で配付いたしました。本日はこの資料8を中心に説明させていただきますので、前回配付いたしましたA3サイズの資料7、検討素材概要版と、映像資料と書かれたものをお持ちでいらっしゃいましたら、必要に応じてご覧いただ

ければと存じます。

次に、参考資料として前回の審議会の会議記録です。22ページになっております。続いて、次回以降の開催通知です。第3回審議会と各専門部会についてです。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご出席のほどよろしくお願いいたします。最後に、封筒に入っております謝礼支払い関係の書類です。なお、この書類がお手元にない方は、事務の関係上ですので、お帰りの際にはお渡しさせていただきます。お手数ですが、7枚すべてに押印していただき、次回お持ちいただきたいと存じます。以上ですが、本日配付のもので不足はございませんでしょうか。ありがとうございました。牛山会長、よろしくお願いいたします。

牛山会長：ありがとうございます。それでは、議題に入っていきたいと思います。次第の1番になりますが、基本構想策定のための検討素材についての説明でございます。検討素材につきましては、前回の意見交換の中でもご質問をいただきましたし、また事務局からも書面で意見提出をお願いしてまいりました。そのあたりも含めて事務局からご説明をお願いしたいと思います。

基本構想担当課長：それでは、検討素材について説明いたします。区の現状や課題等について審議の参考としていただくため、基礎的数値や区の取組結果などを元に用意いたしました。今回は資料7の概要版や映像資料をもとに説明申し上げました。本日は冊子タイプの資料8を中心に、一部繰り返しとなる部分もございますが、少しお時間をいただきまして説明させていただきます。

なお、牛山会長からもお話がございました、この検討素材に関していただいているご質問等につきましては、まずは資料8を項目順に説明していきながら、関連する項目のところになりましたら、その回答なり補足をさせていただこうと存じます。このうち、新たに数値やグラフ等でお示しするものは、先ほどの資料9のカッコで補足資料と書かれたもので説明させていただきますので、ご準備いただきたいと思います。

それでは、資料8の冊子、検討素材の表紙をおめくりください。目次で全体的な構成を説明いたします。第1章は、これまでの人口の推移など、基礎指標となるものです。第2章は、区の主な取り組みの成果です。現在の基本構想を実現するために実施してきた施策の取組結果を記載しました。続きまして、目次の第3章から第6章は、専門分野ごとになっており、それぞれ数値の推移等を記載させていただいております。

1枚おめくりください。1ページ目以降は、区のこれまでの人口推移などについてです。前回でも触れましたが、1ページ目の上、人口も世帯数も増加してきています。下の年齢3区分別では老年人口が増加、生産年齢人口と年少人口が減少しています。なお、全国における順位等が分かるものは、他の項目も含めまして補足資料【資料9】に一覧化いたしましたので、併せてご覧いただきたいと思います。

次に2ページ目をご覧ください。区の年齢3区分別に、構成比と23区順位の推移を示しました。特に1番下の65歳以上の老年人口における構成比をみると、23区順位は急激に上昇しています。ちなみに補足資料の方ですが、2ページの老年人口比

率という行をご覧ください。老年人口の構成比が23区順位は2位と高いですが、全国的には老年人口の構成比の平均25.6%を下回り、順位は1,741ある自治体中1,444位という状況です。

次に3ページ目です。人口の自然増減です。青色の出生数は減少している一方で、赤色の死亡数は増加しており、自然減の状況です。下の方の合計特殊出生率は1.36と23区中では2位と高い順位にありますが、全国平均の1.43は下回っています。

次に4ページと5ページは、23区すべての高齢化率のグラフです。左側の足立区のように順位が上昇している区は、いわゆる周辺区となっています。右側には、順位が横ばいの区、そして順位が低下している区と3パターンでお示しました。

次に、6ページの転入者数と転出者数の推移ですが、この両方を比較したものが7ページの上の方のグラフになります。赤い転入者数が青い転出者数を上回り、その差が大きくなっています。そのため、日本全体では人口が減少している中、足立区は自然減を上回る転入超過により人口増が続いている状況です。なお、書面でいただきましたご質問、社会増の内訳はどうかについてですが、ここ3年間は20歳代の方の転入が特に多い状況となっております。

次に8ページをご覧ください。これまでの人口推移ですが、人口増の状況は平成26年が約四千人の増加、平成27年は1月から6月の間だけでも約三千人の増加と、人口の増加が急速となっております。足立区は平成25年度に人口推計を行いました。下のグラフでお示した通り、平成25年の前2年間の人口がほぼ横ばいだったため、その後もほぼ横ばい、いずれは人口減少すると予測しました。しかし、実際には赤い点線の通り、予測を超える人口増に至りましたので、現在、改めて直近までの実態を分析した上で人口推計を行い、時期は未定ですが今後の審議会の中でお示しする予定で進めております。

次の9ページは、区の世論調査における定住意向等の回答結果の推移です。右下の足立区に誇りをもっているのグラフでは、青色の「そう思う」が赤色の「そう思わない」を上回っています。

次の10ページは、同じく世論調査で、区の施策に対する満足度と重要度についてです。水色の表では、右に行くほど満足度が高く、また上にいくほど重要度が高いという回答です。例えば、Aゾーンは重要度は高いと考えるが、満足度は低いという施策の分布になります。

続きまして、11ページ目以降では、現在の基本構想のもとで区が取り組んできた成果について、主な施策を紹介させていただいております。(1)の魅力と個性のある美しい生活都市であります。これは現在の基本構想で掲げている足立区の将来像の一つです。

当審議会におかれましても、この表現にとらわれるわけではございませんが、最終的には足立区の将来像等について答申をいただきたいと存じます。なお、前回の意見交換におきまして、基本構想の成果についての評価をというお話をいただきましたので、これらの施策に取り組んだ結果が成果を挙げているのか、逆に課題が残っているのか

が将来像の実現においての評価につながるものと考えております。これらもご参考に、後ほどご審議をお願いしたいと存じます。さらに他の委員のご意見としまして、取り組みの成果の各項目を専門分野ごとに整理して配付をと書面でもいただきました。これにつきましては、A3版の資料10、カッコで追加資料と書かれたものでご用意させていただきましたので、今後の課題検討等のご審議の際にご活用いただきたいと存じます。

初めに のエリアデザインについてですが、大規模な土地を活用する上で、そのまちの魅力を高めることにより民間活力による整備を推進しております。最近では花畑エリアに文教大学を誘致、江北エリアには東京女子医大病院・東医療センターの移転計画が進んでいます。なお、書面でいただきましたご意見・ご質問について、東医療センターがある荒川区の方との関係はどうかということについてですが、現在のところ大きな問題には至っていない状況です。

次に の交通整備ですが、公共交通空白地域が以前は30%以上あり、区の大きな課題でしたが、現在は6%未満に減少しましたが、なおも空白地域は区界を中心に残っていますので、更なる解消に努めております。

の竹ノ塚駅付近鉄道高架化は、まだ工事が完了しておりません。今後は周辺のまちづくりによる地域活性化も推進してまいります。

の燃えないごみなどの資源化は高い実績を挙げており、ごみ処分経費の削減にもつながっております。これはどのような努力の結果なのかという書面でのご質問をいただきましたが、区民の方には日頃から分別や減量にご協力をいただいておりますし、行政においてもさまざまな材質のものを資源化するためのルート開発や、区民の方への周知に取り組んでいる結果と言えます。

続きまして、12ページです。(2)自立し支えあい安心して暮らせる安全都市という将来像を実現するための取り組みです。 のビューティフル・ウィンドウズ運動です。地域の皆様方のご協力によりまして、刑法犯認知件数が大きく減少し、世論調査でも治安が良いという割合が悪いを上回ることが出来ました。ただし、悪いと感じている方がまだ多いですので、引き続きご協力をお願いしたい状況です。

の孤立ゼロプロジェクトも調査や身守り等にご協力をいただいております。こちらにも更なる拡大に向けて、引き続きお願いしたい状況にあります。なお、前回の審議会で、協働の具体的な取組事例をというお話がございました。以上の2項目と、後ほどご紹介する大学連携の他、区民評価などの審議会委員、各種推進員、各種指導員、各種自主管理等々多数ご協力いただいております。区といたしましては、協働の取り組みをさらに拡大させていただきたいと考えております。

次は、 の糖尿病アクションプランによる健康づくりの推進です。区民の健康寿命を延ばすため、若いうちから野菜の摂取量を増やし糖尿病の重症化など防ぐ取り組みを進めてきました。しかし、健康寿命は国や東京都と比べて2歳短いままで、糖尿病に掛かる1人当たりの医療費も高いという状況が課題として残っております。なお、書面質問で、運動不足対策についてはどうかということですが、継続が必要な運動よりも効果がある食事への取り組みにまず力を入れまして、その効果を見ながら運動に

関する取り組みを検討していく予定であります。

のジェネリック医薬品の普及やレセプト（診療報酬明細書）点検も医療費の抑制に効果が出ています。医療費全体は今後も増大化していくと思われますので、継続した取り組みが必要と考えます。次に１３ページ、の子育てと仕事が両立出来る仕組みづくりについては、待機児童解消に向けた取り組みが今後必要です。次の、障がい者が地域生活を送るための支援につきましては、住み慣れた地域で生活し続けていけるように施設整備などの支援を行っております。その他、困窮者支援や自殺対策、そして１４ページのいわゆるごみ屋敷対策も進めております。

続きまして１５ページです。（３）の人間力と文化力を育み活力ある文化都市という将来像を実現するための取り組みです。の小学生の基礎学力について、将来を担う子どもたちのための取り組みが少しずつ成果を挙げていますが、中学生も含め今後も力を入れていく必要があると考えております。では、学校のおいしい給食の取り組みが、捨てられる食材の減少へと効果が出ています。の不登校対策は更なる充実を行っていきます。なお書面でのご質問、いじめ対策につきましては、足立区いじめ防止基本方針を策定して各学校が未然防止・早期発見と解決に取り組んでおります。具体的には心の教育の充実、教員のいじめ防止研修の実施、スクールカウンセラーの派遣、いじめ相談窓口の拡大、いじめ電話やメールによる相談受付。それから年３回のアンケート調査等で、結果的にいじめの認知件数は減少しております。の区内経済の活性化、そして１６ページの都市型農業の推進、今後六つになる大学との連携も引き続き取り組んでまいります。

続きまして１７ページです。（４）自己進化する協働型自治体を実現するための取り組みです。のシティプロモーションでは、区のイメージアップを図るための取り組みの結果、世論調査では足立区に誇りを持っている区民の割合が４９．４％にまで上昇しました。ここで誤植の修正をお願いしたいと存じます。シティプロモーションの最後の行です。カッコ内に７ページ参照とございますが、正しくは９ページでございます。申し訳ありませんでした。その他、の計画的な職員削減等、の区政改革、の職員の接客力、の公共施設の適正な管理、そして１８ページの住区センターを活用した自主活動もさらに推進してまいります。

続きまして１９ページです。これまでの成果と言うよりも今後に向けて特に力を入れている施策として、の子どもの貧困対策、の足立区版地域包括ケアシステムの構築、の待機児童対策、そしてでは地下鉄８号線の区内への誘致を紹介させていただいております。

続きまして２０ページからは、専門部会ごとの数値の推移等になります。牛山会長、このまま説明させていただいてもよろしいでしょうか。

牛山会長：お願いします。

基本構想担当課長：改めまして２０ページ以降の子ども専門部会に関する事です。申し訳ありませんが、主な項目で触れてまいります。

まず20ページの下、保育施設の待機児童数ですが、紫色の保育施設定員は毎年数百人増やしても、待機児童が解消されていない状況です。21ページの上、区立小・中学校の児童生徒数はほぼ横ばいの状況です。23ページをお願いします。区内5大学に1万3,543人の学生が在籍しています。24ページです。上の小学生の学力は大幅に向上しています。下の中学生は、向上はしているもののもう少し水準を上げたい状況です。26ページをお願いします。就学援助については書面での質問がありました。対象の児童・生徒数が横ばい、もしくは減少しているのは貧困対策の成果かということですが、主な原因は社会的に経済状況が上向いている影響と考えられます。子どもの貧困対策におきましても、今後効果が現れていくよう取り組んでまいります。次に27ページです。児童扶養手当は、1人親家庭を対象に所得に応じて支給されますが、近年増加しています。

続きまして、33ページ以降のくらし専門部会に関する事です。33ページについて、産業の事業所数は減少していますが、下の表の通り23区平均でも同じ状況です。34ページの製造品出荷額も23区同様減少傾向です。38ページをお願いします。刑法犯認知件数は年7,561件にまで減少しました。41ページをお願いします。上の要介護・要支援認定者数と下の介護保険給付費、共に増加しています。43ページです。下の生活保護関係ですが、これまで増加し続けてきました。

なお前回、区民の所得状況を示してほしいというご質問・ご意見がありましたので、この場でお示しさせていただきます。資料9をご覧ください。補足資料の裏面になります。2ページをご覧ください。上にあるグラフですが、自治体別の平均所得は不明でしたので、目安として納税者1人当たりの課税対象所得で説明させてください。足立区は平均331万円と、23区では最下位です。次に検討素材の45ページです。下の有効求人倍率は、青色の線の足立区も上昇傾向となっております。46ページの上、町会・自治会加入率が漸減傾向ですが、この理由について書面でご質問がありました。区が加入していない方にアンケートを行ったところ、町会等が何をやっているかがよく分からないという回答が多くありました。そこで、町会・自治会の皆様方とも協力して活動のPRに努めるなど、加入促進の取り組みを始めています。次の47ページについては訂正となります。地球温暖化に関わる上の気温、及び下のCO2排出量については、くらし専門部会ではなく54ページ以降のまちづくり専門部会における資料としてご検討をお願いしたいと存じます。大変申し訳ありませんでした。

続きまして、54ページ以降のまちづくり専門部会に関する事です。まず56ページをお願いします。エリアデザインとして発信していく7エリアを示しております。次に58ページです。区営住宅は青色で約550戸、都営住宅は赤色で約3万3,000戸と非常に多くなっています。都市再生機構(UR)は緑色で約1万5,000戸。数は横ばいですが、今後の建て替えなどに伴い余剰の土地が生じた場合には、開発などの可能性が発生してきます。次に61ページです。上の地震危険度マップでは、区の南部が赤く、危険度が高いことを示しています。下の洪水ハザードマップは見づらくて申し訳ありませんが、利根川が氾濫した場合、区の東側ほど浸水の被害が大きくなる見込みです。62ページの下。公園面積は最近まで増加し続けてまいりました。

続きまして、65ページ以降の経営改革専門部会に関することです。65ページの区職員数については削減を続けており、人口1,000人あたりの職員数は23区で最も少なくなっています。66ページです。上の区の決算額の表ですが、上から4行目の歳出総額をご覧ください。年々増加し、25年度は約2,540億円でした。主に福祉関係の扶助費が増加しています。なお前回の審議会で、今後15年後くらいの指標となる財政状況等を示してほしいというご意見がありました。これについては、資料9の補助資料をご覧ください。2ページ目の下の表になりますが、現在は平成25年度から32年度の間の足立区中期財政計画があるのみです。中ほどの赤色文字、扶助費が増加していくと予測していますが、歳出の総額は伸びさせないという計画ですので、一番下のその他、一般事業費等で抑制を図っております。実際には27年度予算のところになりますが、特に投資的経費が工事費の増大等で計画よりも膨らんでしまっている状況で、今後もこれが継続する見込みです。

次に68ページで、誤植がございます。申し訳ございません。グラフの上の四角囲みの中、「資産」額の「資産」が誤りで、正しくは試算する、試しの計算という文字です。なお、このグラフはあくまで想定のものですが、区の公共施設が50年ほど経過して、単純にそのまま建て替えや改修を行った場合には、将来の経費がこれだけ必要になるという想定の数値です。

検討素材については以上ですが、ご質問・ご意見等への回答していないものがあと三つございます。一つ目は、基本構想策定に関してパブコメ、場合によっては区民との意見交換会を検討してはどうかというものです。これにつきましては、まず基本構想の案に対する区民のご意見等を聞くパブリックコメントは、平成28年4月頃に行う予定であります。意見交換会については、この審議会に先立ちまして、さまざまな区民の方、例えば子育て中の方、二十歳の方、单身の方、高齢者の方、中学・高校の方などに集まっていただき、足立区の将来についてご意見を出していただきました。そのご意見をまとめたものは、次回の審議会の中で提出させていただきます。また、区民の代表であります委員の皆様にもご審議していただいております。これらの機会を活用することで進めさせていただきたいと事務局としては考えております。

二つ目はTASK、ものづくり産業の活性化を目指した足立区と近隣区の連携のような他区連携も検討した方がよいとのご意見についてです。事例としては、荒川の洪水での避難を迅速に行う荒川下流タイムラインや、綾瀬川をきれいにする綾瀬川清流ルネサンスなどが考えられますが、今後もこのような連携の検討は重要だと事務局も考えております。

最後に、オリンピックのように今後区政にとって大きなインパクトを与えるイベントは何かということです。現在のところは、区内においては鉄道立体化整備、地下鉄8号線、これは有楽町線ですが、その区内への誘致、北綾瀬駅の始発駅化、花畑の文教大学開設、江北の大学病院開設、都営住宅等の建て替えに伴う余剰地活用などが考えられます。区外においては、今後大きなインフラ整備が動き出さない限り、東京オリンピックほどの影響のあるものは現在のところ想定が難しい状況です。

以上、長時間で申し訳ありませんでしたが説明を終わります。牛山会長よろしくお

願います。

牛山会長：ご説明いただきありがとうございました。前半の方では区の取り組みにつきましてご説明をいただきまして、後ほどそれらについての評価の意見交換。これは別に議題で皆様からたくさんご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

ここでは、今いただいたご説明について、ご不明な点とか資料の見方が分からないとか、あるいは中身についてのご質問。それから、いくつか意見、前回の会議における議論についてご説明をいただきましたが、ご質問に限っていただき、後ほどご意見等はいただきたいと思いますのでご協力をお願いしたいと思います。

ではご発言いただきます際には、マイクのボタンを押していただきまして、会議録に必要なため、お名前をおっしゃっていただければ幸いです。何か今のご説明をいただいた点についてご不明な点はございますでしょうか。

ぬかが委員：1点だけ。第2章の現行基本構想、基本計画に対する取り組みについてご報告をいただいた中で17ページ。進化する協働型自治体というところですが、区政改革のさらなる推進の中で「専門的定型業務の外部化を検討・実施をしています」というのは基本構想にはなかったように思うのですが。これは前提が基本構想・基本計画に対する取り組みの成果ということなのですが、基本計画に載っているのでしょうか。つまりこれ、前回からの議論で、今の計画に対してどうなのかということで書かれているものだと思って説明を聞いていまして、これはあったのかなという素朴な疑問なので教えてください。

基本構想担当課長：基本構想・基本計画そのものには掲載しておりませんが、基本構想・基本計画を実現するために、その後の区の取り組みとして外部化などを進めてきた状況にございます。

鈴木けんいち委員：68ページで(3) 公共施設の老朽化というところで、工事費用ということですが、試算の数字というのは計画書等に載っている確定的なものなのでしょうか。あるいは今後動くような数字なのでしょうか。

基本構想担当課長：これは確定ではございません。あくまで試算ですが、今ある区の施設が大体50年ぐらいしますと建て替え、その前には改修となりますので、それを単純に同じものを復元するようなイメージで、やった場合はこれだけの経費が掛かるというものを示しています。足立区役所の中で別のこういった検討をしている部門があります。具体的に言えば資産管理部ですが、そちらの方がこれを元に今後の施設更新をどうしていくかという検討に入るための資料をお示ししたものでございます。あくまで試算です。

北川委員：世論調査のお話が出ていますが、具体的な聴取方法をお伺いしたいのですが。さまざまな属性、立場の方がいらっしゃると思うのですが、まんべんなく意見が聴取出来る体制を取っておられたのかどうかを確認させてください。

政策経営部長：世論調査につきましては、無作為抽出をします。20歳から80歳の方、多分3,000人だと思うのですが無作為抽出をして、郵送で回答をいただくということで、現在回収率は6割程度ということで毎年行っています。

白根澤委員：世論調査のところで、そのアンケートの内容が分かりづらい気がしましたので、補足していただけるとありがたい気がします。質問項目に関するものというのは、別にあるのでしょうか。

牛山会長：具体的な質問の内容といったところでしょうか。詳細な資料はどうでしょうか。

政策経営部長：質問票もありますが、報告書がまとまっておりますので、必要でしたら報告書を後ほどお渡しします。そこでどういう内容で聞き、どのような構成になっているかがすべて分かります。

田中副会長：3点お尋ねします。1点目は交通の空白地域の話です。これは多分定義があると思いますので、それを教えてください。二つ目はですね、この資料9の補足資料で、先ほどのご説明で一般会計の話が出ました。事業費が増えていくので、投資的経費を抑制していく方向であるというお話でした。これで行くと事業費が増えていけば投資的経費がどんどん減っていくという予測を立てられているのですが、財政計画というのは何年計画なのかを教えてください。三つ目はですね、これはどちらかというと項目の振り替えの話なのですが、例えば47ページの温暖化、循環型社会といったところ、これはまちづくりの方に移してはどうかという、これは私もそのような意見を出したかと思います。環境問題はまちづくりでやるのはかまいませんが、確かにこのごみの問題とかCO2の問題は暮らしにも関わるのでなかなか悩ましい問題です。つまり、課題横断的にいくつかの分野にまたがる場合にどうするのか。これをどう考えたらいいかというのをもし事務局でお考えになっていればお聞かせください。無理やり縦割りで扱うということなのか、あるいは両部会でやるということもあろうかと思いますが。

経営戦略推進担当課長：まず1点目の交通空白地域の定義ですが、鉄道駅から1kmの範囲。それからバスの停留所から300mを示し、その区域に含まれない部分が交通空白地域の定義となっています。

基本構想担当課長：続いて2点目、資料9の2ページの下、中期財政計画ですが、こ

れは定期的に8年間で設定して計画をしています。8年間を示して、4年ごとに見直し。つまり、4年ごとに計画をお示ししているところです。前は平成25年度にお示しして、次は来年度、平成28年度に新たな計画を、28年度から36年度までというものを示す予定です。現在のところは25年度のものしかなくて申し訳ございません。それから、扶助費の伸びはこういった形だとは思いますが、投資的経費も実際のところ資材や労務単価が上昇しておりまして、予算化せざるを得ない状況となっております。そういったところでは、計画上は抑制しておりますが、いろいろな財源等を用いまして、予算化が実際にどうなっていくかは未定のところです。状況としては、扶助費・投資的経費が今後区の財政の増加要因として上がってくる見込みです。

3点目ですが、先ほどの温暖化対策については、確かに暮らしにも関わるものですが、こちらでも検討をして、やはりまちづくりのウェイトが大きいかなと思ひまして、ご指摘の通り移動をさせていただきました。また、ごみもまちづくりに関係しますが、こちらは逆に暮らしの方が重いかなというところに残させていただきたいと考えております。委員のご指摘の通り、両方にまたがるようなものも、中にはこの他にもあると考えております。そういった場合は、申し訳ありませんが、両方にまたがるということで、今ここに掲載してあるものは、特にこの専門分野のウェイトが大きいものがそのページにあるということでお示しすることでご容赦願います。

牛山会長：3点目については、副会長ご指摘の通り、行政の縦割りと言うか、分野ごとということだけではないと思いますので、出てきた場合には事務局の方で調整していただいて議論をしていただければと思います。

小林委員：21ページの子どもの児童・生徒数のグラフですが、一番最後、学級数が35人学級の導入に伴いということと同水準となっているとありますが、このグラフからそれが読み取れないのですがどうなっているのでしょうか。

基本構想担当課長：原因として35人学級に触れましたが、グラフではお示ししていません。また、次回において何らかの形でお示し出来ればと考えております。

北川委員：資料9の2、今後の指標となる財政状況についてですが、資料8の68ページの公共施設の老朽化に関する費用というのは反映されているのでしょうか。

基本構想担当課長：直接にはリンクしていないのが現実です。中期財政計画は平成25年度の読みで策定しております。試算の方は直近にやりましたので、施設更新が予定通りに行くとなれば、次回の中期財政計画の方が反映されるものと考えております。

北川委員：前回のアンケートにも書かせていただいたのですが、ここの公共施設の建て替えの掛かる費用というのはかなり大きなものになると思ったので、それが今回の

検討を進めていく上では結構大きいことなのではないかと考えたのですが、私の質問に対する答えがいただけていなかったようで、今改めて伺いました。それはなしと言うか、考慮しないで今回は進めるという理解でよろしいでしょうか。

基本構想担当課長：ご意見・ご質問をいただいた上で回答が不十分で申し訳ありませんでした。この公共施設の更新経費が区の財政に及ぼす影響というのも大きいものですので、ぜひ審議の中でも検討していただければと思います。またどう解決していくかということもと検討いただければありがたいと思います。

牛山会長：考え方としては、現状の資料ではリンクしていないけれども、実際にはこれがかなり大きな負担となってくることは事実なので、そのことも含めてどんな資料がこれからあり得るかというのはありますが、議論の中には入ってくるという理解でよろしいでしょうか。委員のご指摘のように、その点は重要なポイントとして議論していくということでもよろしいかと思います。

北川委員：資料に私の質問が入っていなかったのも、それも含めてということでしたので、そういう理解で進めさせていただきますのでよろしくお願いします。

馬場委員：ただいま基本構想策定のための検討素材をいろいろ説明してもらったのですが、それぞれ子ども・くらし・まちづくり、それぞれについて区民意向ということで、区民がどう思っているかのデータが示されていました。先ほどの質問にもあったのですが、世論調査をどのようにしているかが見えないという話にリンクするのですが、次の基本構想を作るにあたって、今までの行政の取り組みに対しての区民の意見は分かるのですが、これから今現在住んでいる区民は、足立区の子ども・子育てに対してどういうことを強く希望するのか。

例えば、教育に関してはどういうことを求めているのか。まちづくりに関してはどんなことを役所に期待するのか。そういうところがちょっと見えてきていないなと思います。先ほどの世論調査をわれわれにお示ししていただくにあたっては、やはり今現在の区民が何を一番われわれに期待しているのか。新しい基本構想に期待しているのかという生の意見がもうちょっと分かった方がいいかなと思うのですが。その点も世論調査以外で声が出ていたら教えていただければと思います。

基本構想担当課長：本日は資料としてご用意出来ずに申し訳ありませんが、次回にお示ししたい資料がございます。さまざまな区民の方を集めて、将来の足立区はどのようなになったらいいか。そのような意見を集めるためにワークショップを開催しました。例えば二十歳の方、子育て中の方、高齢者の方、あとは中学生・高校生についても行っております。今まとめている状況です。次回、8月31日にはそれぞれ教育とか福祉、そういったテーマには絞ってありませんが、皆さんが考える将来の足立区像というものを、意見が出たものを、生の声をお届けしたいと思います。次回以降ご検討い

ただけたらと存じます。よろしくお願いいたします。

牛山会長：区民意見がどうであるかという大変重要な指摘だと思います。次回その点についてもご報告をいただき、議論していきたいと思います。

田中副会長：おそらく、今委員が要望されたのは、区長への手紙だとか、直接いろいろな部署にニーズが届けられていると。そういう声も場合によってこの区政に反映出来ないのでしょうかという話だと思います。ですからもちろん別途ワークショップだとか、直接参加型でやるご意見もこれはこれで貴重だと思いますが、おそらく行政の各部署でお持ちになっているデータも活用してはどうかという意見だったのではないかと思います。ちょっとご検討いただけませんかでしょうか。

牛山会長：ありがとうございます。またそういったものも含めて、区民意見が広くどんな状況であるかをお示しいただければと思います。

基本構想担当課長：検討してまいります。

牛山会長：お願いいたします。まだ質問はあるかもしれませんが、議論の時間をこれから取っていききたいと思います。もしまだご不明の点がございましたら、その中でいただければと思います。

２．意見交換

牛山会長：議題ですが、意見交換の（２）となります。先ほどご説明いただいた点について、（１）と（３）で、足立区の現状についてのまず皆様からのご意見をいただき、３０分ぐらいたちましたら、今度は足立区の将来の課題についてということでご意見を伺っていききたいと思います。

部会ごとにいろいろなご意見があると思いますが、この後また部会ごとのご意見をいただきますので、ここでは特に区切らずに、皆様からどんどんご意見を出していただいて、事務局の方でそれをまた整理していただいて、今後の部会進行にも生かしていきたいと思います。運営に限らず、現状と課題ということで、まずは足立区の現状について説明をいただいた部分について、委員の皆様からご意見をいただければと思います。

志自岐委員：待機児童の件ですが、これはどんどん施設は増えていくけれども、待機児童の数はなかなか減らないということがあるのですが、その辺については施設が後追いみたいな形になっている気がするのです。待機児童を満たすために後追いの形になっているのではないかと思うのですが、ここについては後追いでは後手に回るような気がします。

定野委員：実は保育行政を所管しておりまして、この度アクションプランを改定しまして、5年計画だったのですが、3年短縮して1,300人の定員増を図るようにしました。今年についてはそのうちの630人の定数増ということで、先回りをするという方向転換を図っています。

政策経営部長：あと保育の状況は、本当に後手状況であると結果として見られるのですが、足立区全体で見ますと、保育の定数は空いています。ところが地域的な偏在があって、また年齢的な偏在があって、その辺の需要を十分見込んだ対応が取れなかった結果として、地域的に足りない部分があるということです。今教育長が言われたように、地域的にかなり細かく分析をして対策を打とうということで、アクションプランで先回りの方向に変えています。

吉岡委員：今の待機児童の件について、実はわれわれ5月に区議会議員選挙がございました。私は前回申し上げたように六町に住んでおります。そうしましたところ、毎日駅に立って皆様にごあいさつをしている時に気付いたのですが、とにかくベビーカーを押している若いお母さん、あるいは自転車の前後に子どもを乗せて買い物をしているお母さんが極端に増えました。これはもう明らかな従来との違いだと認識しております。

更に、近所の住区センターの中に子育てサロンみたいな若いママたちが集まるサロンがあるそうです。そこにうちの娘も通っておりまして、たまたま5人だか6人友達が出来たそうです。そのうち足立区に従来住んでいるお母さんはたった1人。うちの娘だけでした。あとはどこから来たのかと聞いてみると、大阪からという方が1人、埼玉県という方が1人、それから墨田区と杉並区でしたか。そういった足立区外から移り住まれた方が大勢いるという現実を目の当たりにしています。やはりその辺については、六町のエリアデザインで区も取り組んでいく中で、その辺がかなり着眼しながら進めていくべきだろうと思います。

牛山会長：待機児童の現状についてご説明をいただきましたが。

ぬかが委員：定野委員さんが言われたことで私もそうだなと思っていたのですが、事務局とはちょっと認識が違うのではないかと思うことがありましたので関連で発言します。先ほど偏在が多いとか、それから空いているところがあるとか、そういうところが主な原因であるかのようなお話がありました。実際には保育園に入りたいとか預けたいお母さんたちとの求めるものと、実際の提供する保育士さんとのミスマッチがあるというのが私は大きいと思っています。何かというと、認可保育園に入りたいと思っても、保育定数というのは保育ママさんとか、小さな駅の一角にある小規模保育所とか、これを含めての保育定数であります。

だから、保育定数には空きがあって、今年の4月の時点で保育ママさん、子どもが

1人もいませんなんていうところがたくさんあったのです。だけれども、認可保育所はいっぱいであると。だから、やはり求められるものということで、本当に十分なニーズに合った、同じ保育の定数でもニーズに合ったものを整えていくという方向が必要なのではないかと思っています。だから、それをもって定数に空きがあって偏在だという問題として片付けてしまうと、さらにニーズとのミスマッチが広がると思っています。

ですから、今年の入所に掛けての第1次申請の時に申し込んだお母さんたちのうち、1,022人が入れませんという事態になったから、やはりいろいろ社会的にもニュースにもなったりということがあったので、やはりそのニーズを的確に捉えていくというところが必要ではないかと思います。先回りするというのが大事なことで、その時にはそこが大事なのではないかと思います。

牛山会長：ご意見ありがとうございます。事務局のご説明の偏在も、それから今ご指摘があったようなニーズに対する対応ということで、いくつか要因があるのだとは思いますが。そういった意味で皆様のご意見として、そういった偏在、あるいはニーズのミスマッチ等々含めて解決していく中で、待機児童をなくしていくと。少なくしていくと。そのようなご議論でよろしいのかなと思いますがいかがでしょうか。

（意見なし）

牛山会長：私、言葉が足りませんで、現状についてと申し上げましたが、事務局からご説明をいただいた取り組みの成果も含めてご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

馬場委員 前回の基本構想が出来上がって、新たな形ということなのですが、ここ5年、10年の足立区の大きな流れの中で、インフラの整備が挙げられると思うのですね。つくばエクスプレスが開通して、この8月で丸10年になりました。日暮里舎人ライナーが開通して丸7年がたったのですが、その何年か後に沿線に住宅がどんどん開発されて、そしてまた大学が誘致されて、学生がどんどん来ると、住宅事情が随分変わってきたのがここ数年の流れだと思います。

それに対して、行政側が対処し切れているのか。先ほどの待機児童問題でもないですが、先回りして手を打っているのかということ、現状は後手後手になっているのかなという気がします。一つ例を挙げますと、学生が増えるとマンション業者はワンルームマンションを建てたいというケースがあります。ワンルームマンションの問題は昔から都心部にありました。何が問題かということ、まちの中にワンルームマンションが建っても住民票を移さず、短期間だけ住まわれて、地域とのコミュニケーションも少ない。だけれども、住民が税金を落とさないけれども、区としては行政サービスを提供しなければならない。

都心部などは、ワンルームマンションを作ったら、1戸あたり何十万かの負担を自

治体が求めるとか、そういった条例を課しているところもあります。足立区はそういった例がなかったものですから、ここ２～３年で一気にそういった事情が顕在化してきています。そういったインフラ整備がこれからも充実していくとは思いますが、現在充実する過程の中で起こっている問題点というのをしっかりと漏らさずに取り上げていくのが今回の基本構想だと思っています。

牛山会長：ありがとうございます。インフラ整備、大学誘致も大変重要だということではあるのだけれども、それに伴って生じる問題について後手後手に回らず政策をとるご意見かと思います。

経営戦略推進担当課長：ご指摘の通り、やはり足立区の人口構成だとか、昼間人口が増えているということで、インフラ整備によって社会環境が変わってきている状況は間違いなくご指摘の通りです。今後、ワンルームマンションをどうしていくかといった話も含めて、その将来像、あるべき姿を基本構想の審議会の皆様にご議論をいただいて、それに向けた施策を打っていくという中で取り組んでまいりたいと思います。この場でそういう課題等々を含めて、１０年、２０年、３０年後を見据えた上でのロードマップをさせていただければと考えております。われわれも認識していますし、そういうものを計画、施策に反映していくための基本構想であると捉えていますので、そういう部分でご議論をしていただいて作っていただければと考えております。

牛山会長：今までの成果と、その成果に伴って生じる課題などについても、この審議会で議論していかなければいけないのだと思います。ご指摘ありがとうございます。

鈴木けんいち委員：現状ということでは、２６ページ、２７ページに就学の現状があります。ちょっと横ばいではありますが、非常に他の自治体と比べても高い状況。これは現状として足立区の特徴だと思います。この児童扶養手当ということで、ひとり親がこれは平成６年に比べると２倍近くに増加しているということで、今後も増える可能性も感じられます。重視して取り組んできたとは思いますが、それが今後重要になってくるのではないかなと思います。

ちょっと性質は違いますが、足立区では障がい者の方も人数としては多い自治体になっています。全体としてそういうところに目を向けたと言うか、ウェイトを置いた施策展開がさらに重要になってくると思います。

牛山会長：ご意見ありがとうございます。住民意見とか意向調査みたいなものを含めて、いろいろな面で良くなっているところと、やはりまだ課題として残っている部分と両方あるので、それを見据えてというご意見かと思います。

岡安委員：自治体には議員なり他の自治体からの視察が結構あると思います。視察は当然先進事例ということで、参考にしようということで来ていると思います。そうい

った視察が年間に30件、40件あると伺っています。そういったところがこの取り組みの成果なり、新たな視点のものがあれば次回でも示していただいて、それをやりぱり成果としてしっかり示してもいいのではないかと思います。

また、将来の課題とも表裏一体にはなるのですが、成果の取り組みの中で、やはりそこでもなかなか解決出来ないものがあると思います。ここには書いていないのですが、老朽家屋の対策というのを足立区は先進的にやっていますが、一方で無接道の家屋に関しては、まだまだ手が打てない部分もあります。認知症対策なども国がオレンジプランとして出さざるを得ないくらい喫緊の課題で、足立区も相当数、10年後、20年後をにらむとね。先ほど、地域包括ケアシステムで足立区版を構築しなければいけないという将来課題が出ていましたが、本当に喫緊の課題だと思っています。この認知症に関しても、現状の課題ということで、これだけ難しい問題があるというのも示していただければと思います。また貧困ビジネスですとか、ああいった問題なども議会でも議論になっています。

現状の課題というのも、大まかなものを取り組み成果のような形で、次回もしお示しをしていただければ、また構想を練る参考になるとと思いますのでよろしくお願いします。

基本構想担当課長：ご指摘の通り、ここにあるものは主なものということでご用意しましたが、今一度洗い出した上で追加させていただくものがあれば次回に提示したいと思います。

志自岐委員：成果の中で区内経済の活性化という項目があるのですが、くらしのデータの方を見ると、例えば工場の減少とか、経済の縮小とか、農業も少なくなっているといった形で出ているのですが、「活性化」という表現と、成果としてのデータとのところを見ると納得出来ないのですが、この辺はなぜでしょうか。

基本構想担当課長：区内経済の活性化は図っていかねばいけないと考えておりますが、データの的には減少しております。調べたところ、23区全体でも減少しているというところで、解決ということにはなりません、そういう状況の中でもお示しをさせていただいているところです。こういった内容でご審議いただければと思います。

経営戦略推進担当課長：今回の成果として示させていただいたのは、従来の産業支援と言うよりは、起業だとか新しい産業を育成していく上での区の施策を取り組みさせていただいて、そういう中の成果、インキュベーションだとかそういう部分を含めて、新しい起業と言うか、若い人たちの創業を支援していく上での施策の一つとして成果があったというお話です。景気全体が上がって活性化しているという捉え方ではないというふうに、一つの成功事例を挙げさせていただいたとご理解いただければと思います。

志自岐委員：実際に区が行った施策で、例えばどういう会社が出てきたのかとか、あるいは数がどうなっているのか、新規起業とか足立区内でですね。そのようなデータ、この施策の結果が分かるようなものはあるのでしょうか。

政策経営部長：次回ぜひ出させていただきます。今、実際にここに書いてある文章とグラフが合わないのではないかとというのは、まさにその通りだと思います。ここに私たちが成果として書いたインキュベーション施設なり創業の部分でこういう成果が出ていますと。例えば上場された企業が出ていますとか、そういう数値もありますので、ぜひ次回ここに書かれた成果にあった数値をお出しいたします。

北川委員：先ほど集合住宅の話が出た時に、このお話をさせていただきたかったのですが。資料１１の右側のまちづくりに、これからは足立区でも集合住宅がさらに増えていくという他の方のご意見があったのと、あとは資料８の５７ページにもありますように、集合住宅の居住者が増えています。集合住宅と持ち家と賃貸があると思うのですが、分譲住宅も最近増えておりまして、計画的な修繕を行うように指導していかないと、ごみ屋敷どころか巨大なスラムが出来てしまうので、そういうものの支援をやっていらっしゃると思うのですが、さらにされていった方が良いのではないかと考えます。

石川委員：今回、基本構想・基本計画を議論いただいておりますが、実は住宅政策のマスタープランづくりも、併せて進めていく予定であります。具体的な施策については、そちらで議論をさせていただきたいと思っています。こちら側では、出来ればそのご提案をいただいて、それを踏まえた上で住宅政策のマスタープランに結び付けていきたいと思っています。それらが積み上がったものが基本構想・基本計画になるのかなと思います。

吉岡委員：５６ページにエリアデザインのイメージが記載されています。今７か所になっておりますが、当初綾瀬エリア・六町エリア・花畑エリア・江北エリアという形で示されていたように記憶しています。ただ、実はその花畑エリア、順番としては綾瀬・六町を先にやるというふうに説明を受ける中で、実際には花畑エリア・江北エリアについて、突発的に皆さん御存じの通りの文教大学ですとか、あるいは東京女子医大の誘致の話が出て来たのは、やむを得ないことだと思います。順番がイレギュラーなことでも、区民にとってプラスになることで変更されることはわれわれも認めなければいけないと思っています。

ただ、こうしてここを重点的にやるということであれば、やはり２０年、３０年先のことも見据えたエリアデザインにしなければいけないとなっていますから、大変難しい注文をしているようではすけれども、その中でも基本的な優先順位をはっきりして、そしてこの計画の地域にはこれぐらいのマンションが増えるから、じゃあ近隣の学

校・保育園をどうしようということも含めてですね、計画を持っていかないとなかなか思ったようには行かないだろうと思います。

ただ、区民にとって有益な施設ですとか、そういったものが起きた場合は別でもいいのかなと思っていますので、ぜひそれも含めてしっかりと検討していただきたいと思います。

長井委員：転入・転出者の比較ということで、転入者の割合が20歳代の転入がここ最近は多くなってきているという報告をいただきました。また、区内にも大学がそろってきておりまして、学生数の増加ですとか、また先ほど児童扶養手当の受給者数も2倍近くに増加しているとありましたが、この20歳代の転入が多くなってきているということについては、どのような分析がされているのでしょうか。また、今後の足立区を考える上で、担税力のある若者がしっかりと足立区に転入してきていただけるそういった施策も大変重要になってくると思います。その点について伺いたいと思います。

経営戦略推進担当課長：先ほども少し足立区の生活と言うか、構造が少し変わってきているというお話をさせていただいたところです。若者層が今流入してきている原因としては、足立区がイメージアップと言うか、足立区を知っていただいている区外の方たちが増えてきたという話。それと、若い人たちが入ってきている最大の要素としては、地価が少し安い、いわゆる求めやすい価格帯のマンションが少し出ているのではと思います。そういうマンションが集中的に出ているところが、例えば西新井や、新田の街区の中、また綾瀬だとか市街地、北千住についてもそういう価格帯が若い皆さんにマッチするものが出ているので、20代の方が多いのではないかと分析しています。

長井委員：また、今後基本構想・基本計画を策定していった中で、先ほどもありましたが、その構想・計画がどの程度進捗しているのか。またそうしたこともある時期を踏まえてしっかり検証していくことも一つ重要ではないかと思います。その点については、これまでの基本構想・基本計画を踏まえてどのような状況であるのかお聞きしたいと思います。

基本構想担当課長：基本構想で掲げたものを実現するために、基本計画というものをその後策定していきますが、その中で進捗管理していきたいと考えております。

牛山会長：基本構想は、足立区の将来にわたって長期的に見た時にどうしていくかという非常に大きな計画になると思います。もちろん具体的な施策をイメージしながらということになるかと思います。今いろいろご指摘をいただいていますように、最終的には基本構想を将来的にどうするのかというのは大きなビジョンになると思いますので、その辺も見越したご意見をいただいているのかなと思っています。

今までのご議論の中でも、既に今後どうしたらいいかという課題の部分もいくつか入ってきてご発言をいただいていると思います。もちろん成果や現状について、戻っていただいて何かご指摘があればおっしゃっていただければと思います。少し意識的には今後の課題というところで、残った時間でご議論いただければと思いますがいかがでしょうか。

たがた委員：将来的な例えば5年、10年を見据えた足立区を考えると、例えば今の中学生・高校生あたりにまずしっかりとキーパーソンになっていただくためには、特に高校生に関しては、今都立高校の中退者が23区で足立区がダントツに多いということで、当然ある程度ここも歯止めをしていかなければいけません。それと同時に、ニートやフリーターもそれなりにいるということでして、その背景的にはやはり一人親世帯とか家族とか、先ほどの資料にあった通り、所得も23区で低いという部分では、この資料で都立高校に通う生徒も少しずつ少なくなっているということでありま。都立が良くて私立が悪いとかそういう問題ではなくて、きちんと将来的なことを見据えながら若者の対策をしていかなければいけないと思っています。

村上委員：私も実は同じ感想を持っておりました。これやはり区だと小・中を所管していまして、高校は都の管轄になるので、どうしても高校生に対してどうするかということが、やはりなかなか難しいところがあるのですが。学校は都立の高校が多いのですが、区として高校生世代にどういうサポートが出来るのかという視点は、基本構想の中で考えていく必要があると思います。先ほどのご指摘は非常に重要な視点だと思います。

定野委員：私が教育長になってすぐに、高校中退者が1年生の夏休みぐらいまでに中退してしまう。特に、足立区の中ではその時期までの中退者が300人もいるというところで、中高の連絡会を開催して、管轄がどうか言わないのだということで、連携を取るということも始めさせていただきました。これは非常に重要なことだと思っています。区だ都だと言わないようにしたいと私もそう思っています。

鈴木けんいち委員：将来の課題の方に移っているかと思うのですが、今の高校の中退者も含めて、二十歳前ぐらいの若者の居場所と言うのでしょうか。そういうこともこれから重要だと思っています。この基本構想にあたっては、区の方では若年層を呼び込む魅力あるまちづくりということで、例えば区の広報でやっているわけですが、魅力あるまちづくりを進めていくことは大事だと思います。

今、若年層で言うと、一つは若年層が増えていると言いましたが、昔と違って親元で住んでいる若い人たちが増えている。二十歳過ぎても増えています。最近では40代でも住んでいる方がだんだん増えてきています。それはどこに住むかは自由ですが、その少くない人たちが自分で住宅なりアパートなりを借りて住むことが出来ず、親元に住んで仕事に行く。中には引きこもりの方も増えていたりするというところで、そ

れも含めて若い人たちが自立して仕事を出来、活躍も出来る、居場所もある、そういうことがこれからますます重要になってくると思うんですね。

対策としては、一つは雇用の体制が必要だと思うのです。非正規雇用が増えて、非常に低賃金だったり不安定だったりして、それでなかなか給料が上がらないという問題はあります。これは国として考えていかなければいけないと思うのですが。もう一つ、住宅対策として、例えば家賃補助を行うなどして若者が住宅に住めるような対策、あるいは区で住宅を作ることが出来るかどうかは分かりませんが、そういう住宅対策そのものも必要なのではないかと思います。そういう魅力あるまちづくり。特に若者に居場所があって、仕事も出来、活躍も出来る、そういう方向が大事だなと思っています。

若い世代ということは、子どもさんがいる世帯が多いですから、例えば単純に言うと保育料が安いと若い人たちが集まるという傾向ははっきりしていますので、保育料を安くしたり、子育て支援を強めることも併せてやっていく必要があると思います。そういうことなども課題として重視していく必要があると思います。

牛山会長：団体委員の皆様、何かございませんか。

足立委員：今、足立区内では小中学校が2期制を採っています。いろいろ保護者に聞きますと、3期制の方がいいという方がほとんどです。なぜ2期制なのか。それとまたやがて3期制に戻る可能性があるのかどうか、それをお尋ねします。

定野委員：きちんと議論をした上でまたご提案を差し上げたいと思います。2期制にした理由もありますので、それが今どうなっているのかという検証が一つ必要だと思います。その上で今の議論をしたいと思います。

田中副会長：少し大きな話を、考え方を申し述べたいと思います。一つはこういう総合計画を考える時に、あらゆる課題が実は重要なので、まちづくりであったり、あるいはくらしであったり、それから区民の満足度。それから、場合によっては行政改革。あらゆる課題があるので、なかなか難しいと思います。私は基礎自治体からすれば、やはりそういう総花的と言ったらいいいのか、区民生活に関わるすべての課題が重要であるという前提は揺るがせられないと思います。

その上で、しかし区としてメリハリを付けていくことも同時に必要です。先ほど見たら投資的経費ですか。つまり政策的経費が非常に厳しくなっていく中で、やはりどこかでメリハリを付けなければいけない。つまり、基礎的な区民サービスを維持しつつ、同時に足立区らしい魅力的なものをつくる。そこで一つのアイデアとしては、できるだけ強みを伸ばしていくというのはあると思うのです。その暮らしやすさであるとか、あるいは私の方の専門で言えば、例えば資源循環が23区で一番とかですね。そういう区が本当に他の区に誇れるような、そういった強みを伸ばす、その強みを前面に出して区としてのブランディングをしていく。

足立区はこんなまちなのだとすることを区民にアピールするようなこと、今区長が一生懸命力を入れている給食などがそうだと思います。給食の残菜が非常に減っているということです。つまり、意見としては、総花的にやらざるを得ないのだけれども、どこかでメリハリを付ける。その時にできるだけ強みを伸ばしていく。そこにある種重点を置きながら、区としてのイメージアップと言うか、ブランディング力を強めていく。これが一つのやり方だと思います。

それから二つ目はですね、区が持っているいくつか課題。例えば高齢化であるとか、あるいは失業率、雇用の問題とかいろいろあるわけです。これ実は区で政策的になかなか操作出来ない問題があります。つまり、日本全体の例えば経済状況だとか、あるいは東京都が持っているある仕組みによって、区としてそういうものを構造的に受けざるを得ないところもあると思います。ですから、課題は課題であるのですが、それが主に区が本当に要因になっている課題なのか、それはある意味マクロ的に見て、日本経済や、あるいは東京都の問題の中で生じているとか、その分析に踏み込んでいかなければいけないと思います。問題を同じように認識するのではなく、より区として関わるべき、あるいはもっとそこに関与して、場合によっては投資をしていくべきだという課題と、日本経済全体として考えていかなければいけない問題とを切り分け、そのためには要請をすとか働き掛けをすとか、そういうことが大事だと思います。従って、課題もあまり一時的ではないのではないかと私の見方で、そういう分析をするといいなと思います。

それから三つ目は、ちょっとこれは卑近な話ですが、先ほど区民の意見をどう反映するかという話がありました。事務局では若者のワークショップだとか、あるいは中高生に聞くという、将来世代に既に意見を聞いているということもあったかと思います。一つのアイデアとしては、これが区の将来像を作り、あるいは将来の方向性を定めるある種の大きなデザインをこの基本構想が持つとすれば、やはりそこにそういう基本構想の外形が出来た段階、粗々な主体が出来た段階で、区民に直接意見を問い掛ける。つまり今おそらく、次回にお持ちいただく若者からの意見とか、高齢者からの意見というのは、今大体どういうニーズがあるかというある種の世論調査的な話だと思います。今の段階でどういうニーズがあるかということをしきりに取っているわけですが、もう少しこの審議会として大きなデザインが出来た段階で、もう一度区民に投げ返して、そこで場合によっては意見を聞くという、そういう場があってもいいと思います。これは審議の進め方の工夫でお考えになっていただければと思います。

牛山会長：ありがとうございます。今副会長からの3点目ですが、意見を聞いている際に要望とかニーズ調査みたいなことになっているのではないかというお話がありましたが、それは具体的には区民もグループワークをしたり、議論をしたり、行政側とも意見交換的なやり取りがあるとか、その点で言うとどうなのでしょう。今度の資料というのは、それを踏まえた資料になるのでしょうか。

基本構想担当課長：ただいまの件についてですが、次回提出いたしますのは、田中副

会長がおっしゃった通り、現在のニーズとか将来の希望とか、そういったものになっております。その前段階でご説明がありました、基本構想のある程度形が出来てきたところとなりますと、時期はパブリックコメント、28年4月に予定しておりますが、その頃の時期が最適と思っております。ちょっとやり方については検討させていただければと思います。

牛山会長：これまでの資料を踏まえて、またやり方についても今後議論していきたいと思えます。また、副会長から今後の議論の方向性などについてのお考えもいただきました。これも皆様のご意見をいろいろ伺っていると、足立区が置かれている現状と、それからこれまでの成果に基づいてここまで来たと。一方で残っている課題もあって、その中でどんなものを5年、10年と描いていくかという方向で議論していくということが見えてきたと思えます。もう少し時間がございます。ご意見を出していただきたいと思えますがいかがでしょうか。

鴨下委員：これから先、私とか吉岡委員さんは担当がまちづくりのところに入っているのですが、戦後今年70年という時間の中で、もうちょっと目を向けて予算を付けてということをしていただきたい。特に遅れているのではないかと思うのは、密集地域がまだまだたくさんあるということで、そこでは道路も狭い、消防車・救急車・緊急車両がはいってくると一方通行で、そのお宅の目の前まで行けないので担架で運ばなければ病院に連れていけない、そういうところが極端な話、北千住のルミネ、あのビルからずっと上に上がっていくとガラス越しにたくさん景色が見えるわけです。駅前の道路沿いはそれなりにということになっていますが、南の方をみると本当に昔ながらの通りのままです。

予算を取ると同時に、そういう事業もコツコツ進めてこなかったために、70年たってもまだたくさんそういうところが区内にはあるということが大きな課題だと思っています。

密集地域の解消ということで積極的に議論をし、そしてまた網を掛けて、今日やったから来年からやりますということでもないですが、そういうこともこの議論の中でさせていただければと思っております。

北川委員：今後の足立区らしさというお話が先ほど出ましたが、足立区も大学はここ最近5大学、そしてまたさらに6大学に増えるということで、電機大とかは具体的に提携をされているように聞いています。例えば初等・中等教育の分野ですとか、あるいはモチベーション学科というとても珍しい学科をお持ちの大学もあるようなので、先ほど中退者が多いですとか、中学生の学力のお話もありましたが、そういう子どもたちのレベルアップとかに新しい分野に取り組まれている大学の協力を得て、もう少しフィールドワークなどを含めて何かお互いに足立区と提携して成果が出せるような方向が見つかるかというのではないかと思います。

志自岐委員：先ほど5年、10年先を見据えてというお話があったのですが、基本構想というのは、ちらっと聞いたところでは30年ぐらいまでやるということで、30年先、私は生きていないと思ったのですが。それで、いつぐらいまでやるのかということと、確かに人口の比率だとか、そういったもの、あるいは産業のあり方というのは、区だけではどうしようもなく、国が具体的にどうなのかとか、国全体として人口がどうなるかみたいなものと密接に関わっていると思います。

例えば人口推計のところでも、26年、27年で推計とは人数が変わってきたのですが、今後人口がどうなるかみたいなこととか、それは多分いろいろな国の施策によって上限の幅がこのまま行けばこうなるけど、手を打てば少子化が止まるとか、そういったものももちろんあって、必ずしも一直線のラインではないと思います。あるいは産業についても、このままで行けば衰退するけれども、こういうことをすればこうなるみたいなことがあって、国の政策とも密接に絡むと思います。その辺で何年ぐらいを見据えてやるのかということと、あとは一番基本的なデータは、30年先の国のデータとかと区が考えるものとどういうものがあるのかというのをちょっと見たいなと思っています。

牛山会長：基本的には基本構想、足立区の将来像ということで、これは何年ぐらいのスパンで見るかというのはかなり幅があると思います。ですから、そういう中で、しかし具体的にいろいろな施策を展開していくということと関連するとしても、それが出来上がったなら将来的にどんなまちになるかというイメージをきちんと作るのが基本構想だと思います。

人口推計などについても、今御存じのように地方創生ということで、総合戦略とか人口ビジョンとか、全国の自治体で作っていると思います。それと同時に、いろいろ個別の分野別の計画があって、その大元になる将来のまちづくりのイメージみたいなものを作っていくのが基本構想ではないかと私は思っています。計画の具体的な年限の考え方などについても、足立区のお考えもありましょうし、私のこんな説明でよろしいのかも含めて、事務局からいただけますか。

基本構想担当課長：おおむね会長がおっしゃる通りでございます。現在の基本構想が12年間でやってまいりましたので、それにとられるわけではありませんが、長期的な将来像を掲げるという上では、10年から高齢化がだいぶ進んでいくと思われる30年後ぐらいまでを見据えた中で、まだ期間は考えておりませんが、10年から30年の間。場合によっては長く設定しまして、将来改正する時期だなということになれば、その時代に委ねるという方法も考えられると思いますが、ここは事務局で固めているわけではございません。そういったところで考えております。

牛山会長：例えば12年というお話がございましたが、その12年の計画というのをどのぐらい将来を見据えて考えるかというのはあると思うのですね。それが30年なのか50年なのか。例えば東京都でやった研究会などだと、100年ぐらい先を見て

考えようとかですね。どうなっているか分からないところがありますが、そのぐらいを見据えないと今どうしたらいいかというのはなかなか分からないじゃないかということで、ちょっと分かりづらいご説明かもしれませんが、そういった5年、10年ということを経営の年度としながら、しかし将来的にはどの辺まで見ていくかということも、皆様の中でご議論いただいてもよろしいのではないかと思います。

おぐら委員：将来の足立区の課題についてということですが、先ほどもまちづくりの中でどれも重要だというご意見がありました。まさに私も全く同じ認識を持っています。例えば一例を挙げるだけでも、先ほども議論になりましたが、将来の人口構成の問題、人口減少社会に突入していきます。高齢化も急速にどんどん進んでいきます。生産年齢人口もどんどん減少していきます。また、特に足立区は生活保護受給者が23区の中でも一番多いということで貧困問題もあります。特に医療関係、介護もそうですし、扶助費がどんどん伸びています。介護保険・国民健康保険を運営するのも大変な状況でもあります。また防災では、まだまだ老朽家屋が残っていて、対策を進めなければいけないということで、本当に課題といっても多岐にわたる分野にたくさんあります。

これは事務局からぜひ答弁をいただきたいのですが、その中でも足立区の行政としてどういったところを、ヒト・モノ・カネには限りがあるわけですから、優先順位を付けて計画を立ててやっていかなければいけないわけですが、どういったところをヒト・モノ・カネの優先順位を立ててやっていくのか。その課題の認識について事務局の方で考えをお尋ねしたいと思います。

政策経営部長：議会では区長が予算のあらまし等で何度も説明していますが、今足立区は大きく二つ考えております。先ほど副会長からありましたが、メリハリを付けるという点では、一つはエリアデザイン等でまちの魅力を作っていきましょうということです。それからもう一つは、今現在進行中でありましたが、これから将来を担う子どもたちに対する施策を重視していこうと。特に子どもの貧困対策ということで、先ほど少し出ましたが、特に一人親家庭のお子さんの状況が非常に厳しいという実態が明らかになっています。これから将来を支える足立区の子どもの貧困対策を重視していこうと、大きく今二つの方向性を明確に示させていただいています。

ぬかが委員：将来像という関係で、私も足立区の強みを伸ばすというのは大事なことでと思っています。私も環境問題に取り組んできて、足立区の実は環境対策とか取り組みってすばらしいところがたくさんあるのです。それで、区長も一時期日本で一番地球に優しいまちになるのだと。こういうスローガンでやるのだと言っていたのですね。そういう強みの部分というのは、やっぱり積極的にアピールもしながら、そうでない実態もあるんだけれども、やっぱりそういう将来像を描いて目指していくというのは大事なのではないかと考えています。

それともう一つ、よく言われる足立区の良さとして、人情味があるとかって言う言

い方をすることがあるのですが、私、今子どもの貧困対策とか居場所づくりの関係の方々と一緒に取り組む機会があります。そういう中で、やはり本当に皆さん善意で頑張っていて、それがうまく行政と結び付いていない、そういう方々もいらっしゃるのですね。それとか、例えば花火大会の時に浴衣が着られない子どもたちに、ネグレクトで着られない子どもに着せてあげようとかそんな取り組みをやっている方もいます。放課後の居場所づくりをやっている方も、いろいろな方がいて、そういう人の力、人の良さをうまく引き出すような、そういう一人ひとりを大切にする足立区のようにですね。

何か抽象的かもしれないけれども、いわゆるトップダウンなのか、ボトムアップなのかという関係で言っても、その一人ひとりの良さを生かす、そんな足立区を目指すというのをぜひ持って行ってほしいなと思っています。その一人ひとりを大切にするという点では、先ほどあった交通空白区域。これが6%に減ったのはその通りなのだけど、その6%のエリアに住んでいる人は本当に大変なので、やっぱりそういう一人ひとりを大事にして、そういうところの解決も目指す。そういうスローガンと言うか、そういうものが大事なのではないかと思っています。

近藤委員：区内の中小企業は、8割が零細・小規模の企業で、大体後継者不足といったことからだいぶ企業数も減ってきております。これの対策そのものは非常に難しいと思います。直近の問題で、われわれかなり大人数で会議を開くことがあるのですが、なかなか区内で会合を開く場所が少ないんですね。どうしても浅草とか上野とかいかざるを得ないと。出来れば足立区内でお金を落としたいのですが、どうしても出てしまう。出来れば、大学もだいぶ誘致されていますので、出来ればホテルなども誘致が出来ないかと思っています。

石坂委員：さっき出ました大学連携についてですが、われわれ東京未来大学も入ってきて9年目になるのですが、10年前の足立区を思えばまさかこれだけ大学が入ってくるとは思えなかったです。私も足立区に久しぶりに来て、変わったなという印象が強いんですね。それで、当初例えば芸大とかいろいろな試みをやってきたと思うのですが、今は144ぐらい延べ数、大学との連携事業が進んでいます。われわれなども中小企業と連携してさまざまな取り組みをしています。

そう考えると、今後文教大が入ってくると、おそらくいろいろな連携のしかたの可能性が出てくると思います。ただ、あまり足立区の方は大学慣れしていなくて、何をやったらいいかよく分からないのです。敷居がすごく高い、「大学ってすごいところかもしれない」みたいなところがあって、そういう意味では大学慣れしていくと言うか、大学って結構使えるとか、一緒に出来るのだとかこういう動きになってくると、大学間連携も含めて、もっと足立区内でも大学の存在感が出てくると思うのです。これが1点目です。ですので、大学間連携ももっと進めたいと思います。今は行政と大学とか、区民の皆さんと大学ということはよくやっているのですが、将来的にはコンソーシアムなどが足立区に出来ると、かなり大学の意味が上がってくるのではないかと

と思います。

それからもう一つは、データをいろいろ見せていただくと、人口がある程度増えていて、ある意味では非常に恵まれた区だと客観的に私は思います。皆さんにはいろいろ不満はあるでしょうけれども、それはなぜかという、まず一つ目に何だかんだ言いながら打っている施策というのは、治安にしてもごみにしてもかなり成果を上げている。これだけ右肩上がりに成長している分野があるというのは珍しいと思います。

ただ、反面私からすると、ちょっと放置されている政策もあります。それはなぜかという、足立区はそもそも課題が多すぎたぐらいなのです。すべて23区の下の方であって、全部手を付けるとするのは難しかったわけですね。で、出来そうなところから手を付けていって、着実に成果が上がっているものもあるのですが、反面、もうちょっと力を入れても良さそうなところってあると思うのですね。

例えば、自治会の加入率などもどんどん下がっています。人口や世帯は増えているのに、加入率は下がっているとか。あとはおそらく事業所の数だとか工業出荷額、あるいは農業生産額なども、人は増えているのにどんどん落ちているという、これはなかなか珍しいデータです。人が増えているのだから本来いろいろなものが増えるべきなのに、減っているものが一方でたくさんある。長期的な計画を練る上では、先ほどのブランディングはもちろん重要ですが、反面今まであまり手を付けてこなかった部分をどうやってこの10年間で変えていくかということも、大きな僕はポイントだと思っています。あまり今まで議論出来なかった部分。これをどうやって長期的に解消していくのかということも、今後考えていく必要があると思います。

田中隆一委員：現状のいろいろな課題を見ていくとかですね。あとは今までの取り組みを評価するところから、これから先というのを考えていくということなのですが、当然アンケート調査をやってニーズを掘り起こしていくということをやっているのはとても大切なのですが、もう一つ非常に重要な情報源として、区民評価委員による重点プロジェクトの評価ということをやっております。そちらの方でもかなりたくさんの現状の課題や、今までの成果も非常に長らく蓄積されていますので、そういったことも活用しながら議論を進めていければいいかなと思っています。

村上委員：今、いろいろな論点が出てきて、課題を洗い出して全員で共有するということはやはり非常に大事で、総花的になるのはもちろんそれに意味があると思います。やはり優先順位ということも大事ということもあったのですが、基本構想というのは区民の方に発信するものでもあるので、何か区民の方に分かりやすいメッセージと言うか、スローガンと言うと適当か分からないのですが、そういうものをボーンと打ち出して、区民にメッセージが伝わるように何か出来ないかなと思います。

例えば、「裕福ではないけれども、住みやすく楽しいわが区」みたいな、そういったイメージとか。ちょっと思い付きですが、そういった分かりやすいメッセージを区民に打ち出せるような基本構想のあり方が出来ないかなと考えました。

牛山会長：ありがとうございました。まだまだ皆様もご意見があろうかと思いますが時間がまいりましたので、今日はこの程度にさせていただきます。委員の皆様にはまだまだご意見があろうかと思うので、あった場合にはまた事務局にお寄せいただいて、次回の会議に反映していきたいと思います。また、次回の会議においても、引き続き活発なご議論をいただければと思います。

以上で本日の議題は終了させていただきます。ありがとうございました。これで第2回足立区基本構想審議会を終了いたします。次回もよろしくお願いします。最後に事務局から事務連絡をお願いします。

3．事務連絡

(1) 次回の予定

基本構想担当課長：事務局から次回の開催について2点ご連絡がございます。1点目は日程等についてです。8月31日の月曜日、午後3時から5時まで。会場はこの建物の13階の大会議室Bでございます。本日使いました冊子タイプの資料8、それから足立区基本構想策定のための検討素材、カッコで補足資料。これは資料9でございますが、同じく追加資料、10ですね。恐れ入りますが次回もお持ちいただきたいと思います。

2点目です。さまざまな区民の方から足立区の将来について意見等を出していただき、当審議会でご検討いただくため、六つのグループでワークショップを開催しました。これら多くの意見は次回に資料提出いたします。ただ、このうち中学生・高校生による意見を、代表の生徒さん2名がお持ちになります。審議会の中で手渡ししていただくよう設定したいと思いますが、その際に報道機関を入れて集合写真を撮影する予定でいます。つきましては、写真撮影についてご協力をお願いしたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。なお、お車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨をお伝えください。

午前11時58分 閉会